

山本勘助

きつつき戦法



山本勘助は、武田信玄の家来で、「ぐんし」として信玄を助けました。ぐんしとは、刀を使って戦うのではなく、どう戦うかを考える役目の人です。

勘助がてきと戦うために考えた作せんは「きつつき戦法」といいます。きつつきという鳥は、木をつついて、中にいる虫を外へ追い出して食べます。それと同じように、半分の兵で、てきを後ろからつつき、出てきたところを、のこりの兵でやつつける。そういう作せんです。

川中島の戦いで、勘助はこの作せんを使いました。ところが、てきの上杉謙信に見ぬかれてしまい、武田軍はたいへんなことになりました。勘助は、じぶんのせいだと思い、上杉の兵の中へ向かっていき、そこで命を落としたと伝えられています。

せんたく(1)

勘助が考えた作せんの名前は何でしょうか？
えらんで○をつけましょう。

① きつつき戦法

② からす戦法

③ すずめ戦法

せんたく(2)

勘助はだれの家来だったのでしょうか？
えらんで○をつけましょう。

① 織田信長

② 武田信玄

③ 上杉謙信

きじゅつ(1)

きつつきは、木をつついて何を追い出しますか？

きじゅつ(2)

きつつき戦法を見ぬいたのはだれですか？

かん字

かん字に直して書きましょう。

(1) つち

(2) かお

(3) あし

--	--	--

こたえ

山本勘助
やまもと かんすけ

せんたく

(1) ①
(2) ②

きじゅつ

(1) 虫
むし
(2) 上杉謙信
うえすぎけんしん

かん字

(1) 土
つち
(2) 顔
かお
(3) 足
あし